

KBI NEWS

60th ANNIVERSARY CROSS SPIRIT MISSIONS

KANSAI BIBLE INSTITUTE

〒630-0266 奈良県生駒市門前町22-1
TEL: 0743-70-8600 FAX: 0743-70-8601
編集・発行人: 高橋めぐみ

Eメールアドレス: kbi-mark117@ares.eonet.ne.jp
ホームページ: <https://www.kbiwave.com>
郵便振替: 01140-6-67708 銀行: 尼崎信用金庫上ヶ原支店普通0015453

KBI創立六十周年 御言葉の權威に信頼して

上郡福音教会 牧師
関西聖書学院 前理事長

豊村 善典師



KBIがスタートして六十年が経過しましたが、ここまで守り、助け導いてくださった主なる神に、労された諸先生方、導かれた神学生、折り支援してくださった協力教会、信徒の皆さん方に感謝の他ありません。

新型コロナウイルスによるパンデミック状況はまだまだ収束しそうにありませんが、その中であつて多くの神学生がこの学院に導かれていることは、宣教

の主であられる万軍の主のご熱心を覚えます。またKBIへの期待を覚えます。

世界はますます価値観が多様化し、相対化し、混迷し、判断の難しい問題が増してきています。そんな状況の中で、「この天地は滅びます。しかしわたしのことは決して滅びません。」の神の言葉に対する絶対的、そして根本的信頼を置きつつ、イエス・キリストと使徒達の聖書理解を基準にし、バランスのとれた健全な福音信仰により、主から判断と知恵を導いていた

できながら歩み、働くことができたらと願っています。「隠されていくことは、私たちの神、主のものである。しかし、現わされたことは、永遠に私たちと私たちの子孫のものであり、私たちがこのみおしえのすべてのことばを行うためである。」

(申命記二十九章二十九節)
イエス・キリストに召されて

日本の福音化、世界宣教のためにKBIに導かれている皆さんが、福音の中心であるイエス・キリストの十字架の死と復活と聖霊信仰により、イエス・キリストの再臨に向けて学び訓練され整えられ、用いられ、前進されるよう願っています。

現場でご指導くださっている高橋めぐみ学院長、高浦信幸舎監、理事、教師、スタッフの皆さんに、祝福とねぎらいがあり、すべての必要が満たされま

すように祈ります。
「この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が来ます。」(マタイ二十四章十四節)

「そこで、彼らは出て行って、至る所で福音を宣べ伝えた。主は彼らとともに働き、みことばに伴うしるしをもつて、みことばを確かなものとされた。」(マルコ十六章二十節)

KBIニュースバックナンバー

「主の風よ、吹け」 関西聖書学院 第二代学院長
フレッド・スンベリ師

1996年第34号、第36号より抜粋・転載



神の御前にいつもあれ。御前にいる自覚を保て。泣くも笑うも、成功も失敗も、主の前ではよい。

この肉の目ではイエスを見ることは出来ないが、霊の目を受けるなら背後にあるものを見通すことが出来る。日本は外側のことに対して非常に美しくしようとすること。この国は完全性を求める国であるが、自分自身がいくら完全であって、もし主の御前にいないならこの完全性はただ消えてしまうだけ。ゆえに「我が前にとどまれ。最後まで。」霊の目で祈って、霊の目を受けて敏感であれ。外と内は反対である。私達は二つの目(肉眼と霊の目)を使うことを学ばなければならぬ。

成長とは心の目が広くなること。人の心は見ることは出来ないが感じることは出来る。それは大きな賜物である。心を大きく開け、主の御前に近づけ。私が主から頂いた言葉は「我が前にとどまれ。我が前に歩め。我が前に休め。我が前に散歩せよ。」日本には、祈りの時、勉強の時等、いつも決まりごとがある。しかし、キリストはいつもいてくださる。祈りの時言葉を多

くせずに、リラックスして、しばらく主の前に留まることが必要。

今日から新しい献身をせよ。新しい自分を主の御手に差し上げよ。主の御前に歩め。外側は立派なドレス、体物。しかし主は心を見る。イエスに見分ける霊を頂き、主の御前に歩もう。もう振り向いてはいけぬ。あなたの前には一つの道がある。それは主の道である。「全き道を歩め」全きとは完全ということではない。イエスを側近くに見る、慈しみの道である。あなたはあなた自身の力で歩んでいる。しかし今、まっすぐに大胆に、イエスのペースに合わせて歩め。彼がストップするならば私にも進むなら私も。右にも左にも迷わず、主と共に。

：日本は覚醒の途上にあると私たちは確信しています。

多くの悲しむべき事が、私たちの愛する日本に起こりました。この国こそ神がその覚醒を願い、聖霊による「侵略」を願っておられる国です。時は熟しました。ただ前進あるのみ！

私たちがから全ての兄弟方へ心か



▶スンベリ先生とご家族

らのご挨拶をお送りします。皆様への私たちがのこ愛、また主へのこ愛を覚え、感謝しております。

主は私たちを愛し、来たるべき大なる事のために私たちが準備することを望んでおられます。主への更に近い交わりを、お互いの更に近い交わりを求めましょう、再会の日まで！

主の風よ、吹け。(雅歌四二六)

「神の摂理とKBI… インターアクトの流れを覚えて」

関西聖書学院 教務主任 豊村 泰師



KBIも六十周年を迎えることができました。その歩みには、主の大きくて深い摂理があったことを覚えます。

私事ですが、数年前に十カ月はドスウェーデンに滞在する機会が与えられ、インターアクト(旧オレプロミッション)の先生方や歴史などに触れることができました。KBIの主な母団体の一つであるオレプロミッションは、ジョン・オングマン先生によって始められました。そこに流れる霊的な遺産、穏健で中庸、宣教の情熱は、今もKBIに流れていることを確認することができました。

当時、オングマン先生はスウェーデンバプテストに属しており、そこにはすでにペテル神学校があり、ミッションと共にオレプロ神学校を始めました。それは、宣教、聖霊、実践を重視して主に仕えるそのような器を、訓練し整え、世界中に遣わしていくためでした。

KBIは、その流れの中で主の導きがあったことがよく分かります。なぜならオングマン先生やインターアクトの歩みをみると、

時代、場所や順序は異なっているけれども、KBIが非常に似たような歩みを通らされ、教えられ、開かれていっている様子が伺えるからです。

またインターアクトの特徴の一つは、穏やかで他の群れと良い関係を保つことができることです。その結果、他の良い流れからも謙虚に学び吸収しています。それはKBIの持ち味の二つでもあります。KBIは、JECや単立ペンテコステグループなどが中心になつていますが、それだけでなく超教派的な面もあります。様々な背景やカラーを持つ教会から学生達が送られ、交わりが広げられていく中、学びと同時に互いに良い影響や感化も与えられています。

時と場所を越えて働かれる私たちの偉大な主が、天地創造から贖い、再臨、再創造までその計画を、ご自身の真実と御手をもって進めておられます。私たちが、主の大きなご計画と摂理に信頼しつつ、委ねられている時と場所の中で、ますます主の御心を実現していく管として、仕えていくことができるようにと願います。

▶オングマン先生の石碑
JAPANの文字も刻まれている



▶オングマン先生がバプテスマを受けたストウール湖



▶オレプロミッション創立者
ジョン・オングマン先生



生駒移転計画 ~神様のご計画の地であった~

KBI六十一年の歴史の中で、二回目の移転である。二〇〇四年から〇六年にかけてプロジェクトが進んだ。そこに深く関わった証人の一人として紙面を与えられたことに感謝します。生駒移転を語る時、私のテーマはいつも「神様のご計画の地であった」である。

それは、二〇〇四年十二月十一日の一本の電話から唐突に始まった。生駒山の中腹にある旧金融機関の保養所の売却入札情報であった。売りに出た西宮KBI隣接地の購入交渉も煮詰まり、契約の日でもあった。

一九六六年に堺から西宮に移転したKBIは、経年劣化や



▲2006年7月牧羊館II棟上げ式

関西聖書学院 事務長
竹川 正英兄

九五年の阪神淡路大震災で雨漏りなど致命的なダメージを受けていた。二〇〇〇年頃から建替えか移転かで検討が始まった。軒余曲折の末、〇四年九月には正式に「更地、建替え」が決定していた。

入札は僅かに三日後。当時のJEC理事長富浦師、JEC/KBI財務理事福高師、大田学院長、ハイモネン師が急いで現地を見下され、富浦師の「ここは思い切って踏み出しましょう。私が泥を被ります」(五十周年記念誌からの一言)で思いは至致。急ぎKBI、JECの理事に電話連絡で同意を取付けるといふ異例の手続きで入札参加が決定された。

二〇〇四年十二月十四日、敷地面積約三千六百坪、延べ床面積千坪の物件はこうして落札された。一本の電話から始まった、あつという間の劇的な展開であった。東には奈良市街や若草山も一望できる素晴らしい眺望に恵まれていた。一方で新規建築のできない市街化調整区域、金剛生駒園定公園内にあつて風致条例な

ど規制の厳しい立地。近くには敬喜天を祀る宝山寺、門前町として名残の旅館群、正門前の石の鳥居やその奥の祠、地蔵などの偶像の数々があつた。おおよそ神学校には相応しくない環境であつた。反対論も根強くあつた。加えてその後続く試験の数々は誰にも予測できないものであつた。しかしである。悉く脱出の道が備えられていた。私の中では、七つの奇跡を数える。

二〇〇五年二月十四日が、生駒刷新計画を具体的に審議し、規約に従った承認後に実施に移す役割を担った「ネヘミヤ委員会」発足の日であつた。私も母教会の道本師から「手伝ってくれませんか」という言葉に「いいですよ」の二つ返事でその一員となつた。

順風満帆と思われていた金融機関との借入交渉の雲行きが徐々に怪しくなり、委員会も度々重苦しい雰囲気包まれた。木曜日にしか開かれな

い本社役員会議。ただ折って待たされた。期待は尽き

五日の購入代金最終決裁日のまさに前日に下りた。急転直下の決裁への理由もよくは分からなかつた。一気に笑顔が蘇つた。後日談であるが、スタッフ会議で大田学院長が「さしもの大田も断食した」と語られた。直ぐに「食事が喉を通らなかつただけ」とオチがついたが、下見をされた先生方は、契約不履行による違約金支払いのため真剣に個人的弁済を模索されていたと聞く。

私は、退職翌年の〇一年に八尾から生駒に運ばれてきた。自分の意思に反してという意味で「運ばれてきた」。〇五年に今度はKBIが生駒に運ばれてきた。〇五年十一月三日の献堂式の日、どなたかに「神の摂理ですね」と言われた。それ以降のボランティア奉仕も十八年目に入った。昨年新体制となり、毎年多くの神学生が起こされ今や日本を代表する神学校の二つであるKBIに、この先神様はどんなご計画をお持ちなのだろうか。期待は尽き

KBIニュースバックナンバー

「聖霊の風よ吹け」 関西聖書学院 第四代理事長 我喜屋 光雄師

1996年第36号より転載



十字架と聖霊の接点をクリアに(雅歌四二六)

風が、KBIに吹き、そして最上の実を多くの人々が食べるこ

とができるように。

十字架の原理は、キリスト・イエスにある命の御霊の原理である。そして御霊は私達の日々の生活において現実なお方である。(ヨハネ三二八)御霊が働かれる基準は、御言葉の原理であり、その発展したものが聖書全体である。キリスト・イエスにある(St. Christ)ローマ八二、福音派がこのテーマを、生活の中に生かすのであれば、多くの福音派は絶対に滅びない。(ローマ七二五)キリストが、死を通して私を解放し、十字架のメリットにより、神はもはや私の罪について弾劾しない、罪に定めないと言われる。(一コリント一五二三四)私もそのキリストと共に死んで、葬られ、復活した事を忘れてはならない。

古き人から分離され、キリストと結合し、その結果として御霊の実を結ぶのである。(コロサ

二二四)罪に束縛されているという私の常識を取るのか、御言葉の現実を捉えるのかが、問題である。そして、私の身分はキリストと共に天にある。(エペソ二、四一六)というこの確信により、聖のもろもろの祝福が現実のものとなる。(エペソ二二)その入口となる大きな証しが、聖霊のバプテスマである。キリストの生活は、キリストが歩まれた、この十字架のプロセス(死んで、葬られ、復活し、天に昇られた)を、行つたり来たりする生活である。クリスチャンが受ける経験の中で、キリストが十字架においてなさらなかったものは、ひとつもないのである。

一般宗教の熱心さと、霊的な世界とは離れていく。(一コリント四二二)異言は、私達の知性の習慣から自由にするだけではない。また教会の一致は、異言感覚とも言うことが出来る。外側はそれぞれ違ふが、お互いひとつであるという認識が生まれて、聖霊のバプテスマ・異言をもつて、意識を持って人間関係を作る事が出来るのである。

KBIは今刈り入れの収穫のど真ん中にある。しかし、二つ不



足しているものがある。キリストが言われた「働き手が少ない。」ということである。このKBIが、来たるべき収穫の刈り入れをするのにあたり、霊的なことを知って取り扱う事の出来る有能な働き手を養成する機関として、神によって、続けられる事を願っている。



ANNIVERSARY

宣教師の先生方からメッセージ

愛するKBIの皆さん！KBI60周年、お祝い申し上げます。2011年の来日以来10年が経ちました。その時は、KBI50周年記念祝典への招きで、大きな喜びでした。そこで、多くの卒業生や教師の皆さんにお会いできたことは大きな喜びで、主をほめたたえました。今、各地で働かれている多くの牧師、宣教師達は、KBIで学びと訓練を受けました。初めに堺、西宮、そして現在は生駒にあつてです。

私達夫婦は、1981年～1990年まで、西宮で働きました。それはチャレンジ、祝福と喜びの年月でした。神の御園に仕えるため、北海道から九州まで受け入れた若い人達を訓練する奉仕に加わることができたことは大きな持権でした。当時、私達はKBIニュースの必要性に気づき、(ヨハン師は)この計画に携わり、枠組みを作りました。KBIニュース第一号(1982年9月1日号)を手にした時は大きな喜びでした。それは、同労の諸教会や宣教師団体に届けられ、

KBIの生活とその必要を知らせることができました。今もKBIニュースが続いていることは幸いです。

生駒での新しいKBIは60年前に始められた神の良い働きを続けています。私たちが日本を離れて以来、新世代の伝道者、牧師、宣教師が、KBIを卒業しています。新しい学生達がKBIに導かれ続けていることは、主が主の御用のために男性や女性を召しておられることを意味しています。KBIでの教えと働きのために従事しておられる先生方、また学生たちが、祝福に満たされるよう願っています。

“あなたのみことばは私の足のともしび、私の道の光です。”(詩篇119編105節)
愛を込めてヨハン・ペーデセン&マリールイス・ペーデセン スウェーデンより



KBI60周年おめでとうございます！

3年前にノルウェーに戻りましたが、改めて、KBIでの10年間の奉仕は、とても特別な時であったと実感しています。共同生活や訓練の中で、正直に何でも言い合うような場所や機会はなかなかありません。

(帰国後、それがすぐには取れず、ちよつとだけ苦勞しました。)

KBIでは学生たちが主に仕え、また主だけで終わらず人にも仕えていく姿に、今でも感動を覚えています。そして、主に感謝します。ますます変わっていく世の中だからこそ、愛を持ちつつ真理に堅く立つ器が必要です。御言葉にしっかりと立ち、人を恐れるよりも神を恐れる器がますます訓練されて違わされていくようにと願います。

“あなたがたは、世界の光です。”(マタイ5章14節)

新型コロナウイルスの感染が落ち着きましたら、ぜひノルウェーにも来てくださいね！

トーヴェ・ボルヨソン ノルウェーより



世界への祝福となる

関西聖書学院 教師
大田 伯子師



救われ、召命をいただいた。入学したKBIでした。「間に合う器」へと磨かれ育つていくものと思っていたら、自分の信仰や土台が揺さぶられ壊されました。抵抗しましたが、ハレルヤ！主が勝つて下さり、十字架こそが土台と刻まれました。十字架は全き神の義と愛の交差した所。そこに平安を与える真の救いがあります。十字架は神の知恵でした。マスターキーでした。自分が自分を救い、人を救す根拠。それは当然の起結でもあるのに、赦そうとしない頑な自我の死に場所、新しい命にあつて歩み出す十字架でもありました。なんと！という解放感、安堵感！世界の祝福となるた

めに必ず通される主の道。教えにより整理され、主に追い込まれて体験して行く十字架、それがKBIの強みです。

ますます多様で自己・自国優先の価値観にあるこの時代、問題は地球規模にまで拡がり、様々な分野を切り拓く主の弟子たちが待たれています。日本の津々浦々、地の果てまでの宣教も緻細かつタフな主の弟子たちが必要です。

私たちはますますシンプルに福音を生きましょう。日毎に十字架を身に帯びて、「自分を捨て、私に従って来なさい。」と招いて下さる主と歩み、聖霊に心を開き、み声に聴き従って行く弟子の生き方は何としないやかなことでしょうか。

主はこの時代のためにこの時代に育った人を救い、弟子として召しておられます。

「何とかして、何人かでも」

関西聖書学院 会監
富浦 信幸師



KBI六十周年、おめでとうございます。

二〇一八年の年末に、インドネシアミッシェントリップに参加した時のことです。現地教会の若い牧師先生が、私たちに日本からのチームに非常に関心を持たれ、ある時こんな質問をされました。「聞いたところによると、参加している高校生、大学生はアルバイトで貯めたお金でインドネシアに来たそうですね。しかもこんな田舎のカリマンタンに。なぜ彼らはそこまでしてここに来たのですか」と。私は咄嗟にこう答えました。「彼らの中に、宣教のDNAが流れているからだと思えます」と。咄嗟に出た言葉でしたが、自分でも、ああ、本当にそうだなと心から

納得したことを覚えていました。KBIのルーツは北欧の宣教師にあります。そしてこの六十年間、宣教のスピリットがああ時の高校生、大学生に流れていたのと同じように、DNAのごとく刻み込まれてきました。なぜ宣教するのですか。それは理屈ではありません。まるでDNAのようなものです。これまでKBIから遣わされていった先輩方が、その証人です。そしてこれから輩出されていく器たちも同じくです。何より、宣教は、神様のみこころ、そのものだからです。

最近、私の内に響いているフレーズがあります。何とかして、何人かでも。(1コリント九章二十二節)これまで走ってこられた先輩達、これから召されてくる、また見ぬ後輩達、そしてこの時合わされた器たちと共に、このすばらしい福音を、何とかして、何人かでも、知らせていきたいと願っています。

いよいよ色づいた畑に目を上げつつ。宣教はチーム！



コロナ禍で開かれた 最高のリトリート

二〇二二年二月十六〜十八日
◎蒜山バイブルキャンプ場
三年 神澤 晏児

二月五日〜二十五日の十日間、高橋めぐみ先生と共に、三年生十二名でリトリート&アウトリーチの時を持っていきます。今年こそ、以前のように海外に行きたいと願っている候補を出しましたが、コロナ禍ということもあり国内に絞ったのアウトリーチとなりました。

私たちの学年は初め沖繩県に行こうと決断し、その地にリーチしていこうと意気込んで、航空券の購入までしていました。しかし、落ち着いたと思われた新型コロナウイルス感染拡大の波が再び訪れ、沖繩行きは断念せざるを得なくなりました。ことごとく閉ざされ、行けないと思われた今年のアウトリーチでしたが、皆で話し合い、折る中でスケジュールの前半は、岡山県にある蒜山バイブルキャンプ場でのリトリートの道が開かれていきました。

私の予想をはるかに越えて、このリトリートの時間は驚くほど

恵みと安息の時となりました。山と雪に囲まれた自然豊かな施設でゆったりとした時間を過ごし、各々読書をしたり、みことばを深く味わったり、神様と向き合う時間を持つことができました。私自身、主の前に静まることができ、祈る時間をなかなか持つことができていなかったもので、この時間を通してもう一度三年間で受けた恵みを振り返り、福音の感動、自分の召しと賜物、使命を思い巡らす濃密な時間となりました。

こうして普段とは違う場所に行き、落ち着いた時間を持つことは、現代の忙しさを覚える社会において必要な時であると実感しました。これからKBIを卒業し、実際の現場に出て働きをして行く中で、時には働きに追われ、知らず知らずのうちに魂が渴いてしまい倒れてしまうこともあるかもしれません。だからこそ、リトリートという魂を養う時間、自分自身を見つめ直す時間を持つことはとても重要なことだと感じました。

コロナ禍で人と出会うことも難しい、伝道も難しい、出て行く

卒業生の証・論文タイトル・派遣先

石川 良治

私はKBIに入學する時、心配していた事がありました。それは五十代の私が二十代の青年達とまよくやっつけていけるのかということでした。しかし、私が心配する以上に、青年たちの方が私のことを気遣ってくれていました。ありがたいことです。五十代のおじさんが若者と本音で語り合う中で、私の偏見がだんだん取れてきて、彼らを尊敬することができるようになりました。これは神様からの恵みです。

論文タイトル

ネオジム磁石のような人達(重物依存者達を解放したイエス・キリスト)

派遣先

日本伝道隊 志度キリスト教会



石井 すみれ

入学してからつけ始めた三年日記が、終わろうとしています。人と、神と、自分とぶつかってきた日々。小さく、力ない者とされて、ようやく十字架の恵みは自分のためなのだと、深く受け取ることができ、喜びとなりました。知識ではなく心で、霊で、イエス様と出会えたことは、先生方やスタッフの皆様、多くの兄弟姉妹の祈りと支えのおかげです。私を主の愛の中へ導いてくださり、愛してくださり、本当にありがとうございました。

論文タイトル

1%の壁
「福音と文化についての一考察」

派遣先

TPKF 町田純福音教会



高西 隆憲

KBIでの学びを心から感謝致します。特に、聖霊の賜物である異言や霊の養美に触れた時は驚きでした。一三年間を振り返るなら、あの時何が起こっているのか混乱の中でしたが、私の内にある新しい扉が開き、大いなる光に包まれ続けていく始まりであったのかもしれない。聖霊に満たされた先生方、賜物豊富な友の助け、私の内側では驚きが喜びに、閉ざされていたものが解放され、肉体と心の傷の癒しを経験する時となりました。

論文タイトル

日本の聖書通読の現状と通読方法(通読表)の考察と提案

派遣先

JBC 京都クリスチャン
フエロシップセンター



神澤 晏児

万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。(イザヤ九章七節)私がこのKBIで学んだことは、聖書の神は宣教の神であるということです。一つの魂に対する神様の熱い思いを受け取る時、それは私をさらに宣教へと押し出してくれます。十字架の完全な救いを受け、聖霊に力を頂いた私たちは、いよいよ御父がキリストを遣わされたように、私たちも遣わされています。イエス様がなされた宣教を私もなしていきたいです。福音が私を変えてくれました。一人でも多くの人にこの喜びを伝えたいです。

論文タイトル

聖書の宣教的解釈

派遣先

「聖書全体の物語を読み解く編」
日本キリスト教団 高砂教会



ことが難しいと感じる状況でした。しかし、神様は思いがけない導きの中で、大きな恵みを備えてくださっていたことに感謝します。後半のアウトリーチにも期待しています。(二月十七日現在)

小池 有

おはこんばんにちはー有ですーこのKBIの三年間が僕に与えてくれた一番のギフトは「仲間」です。KBIの仲間たちと過ごした時間はかけがえのないものです。また、Seminoleの働きを通して、沢山の方々と出会えたことにも感謝しています。この出会いは、卒業しても続いていく素晴らしいものだ確信しています。KBIで何度も聞いた「宣教はチーム」という言葉。これからの福音宣教のために、この三年間で出会った仲間たちと共に、場所は違えど力を合わせて前進したいと思います。

論文タイトル Reach One More For JESUS!
目的に導かれる教会・

リーダーシップ

派遣先

JEC 東名古屋キリスト教会
パークサイドチャペル



佐藤 創

僕がKBIで受けた恵みは二つあります。一つ目は、十字架です。イエス様が罪人の為に十字架にかかって救いの道を開かれたその福音が、僕の為であったと心の底から信じていることができました。これはこの場所を得た僕の宝です。二つ目は友です。神様が与えてくださった仲間は何度も支えられ励まされました。ふざけ合い、笑い合い、祈り合った友は神様がくれた最高のプレゼントです。神様がこの三年間を導いてくださったことに感謝し、これからも神様と共に歩み続けたいです。

論文タイトル 現代の子どもの問題と教会

派遣先

キリスト伝道隊 活水の群れ
湘南グレースチャペル



菅沼 聖化

「神様をずっと礼拝していたい。神様とずっと交わっていたい。神様のことをもっと知りたい。」そのような願いを私は持っていました。二つ目のことを私は主に願った。それを私は求めている。私のいのちの日の限り主の家に住むことを。主の麗しさに目を注ぎその宮で思いを巡らすために。(詩篇二十七篇四節) KBIでの生活は、この願いを現実化することのできる場所であり、環境でした。一人で、そしてみんなと神様を礼拝する。KBIでの生活は毎日がこのような時間でした。

論文タイトル 「神との友情」の価値の再発見

派遣先

単立 ニューホープチャペル



瀬在 曜子

KBIで神様と人に愛されて喜びが溢れ、神様と人を愛する思いが湧き上がるようになった。リーダーとして立つのは不安だったが、主と仲間と愛され、助けられ、楽しかった。全寮制ならではの人間関係の難しさの中、相手を愛することができるようになり、祈った。祈られることによって、祈りの力を体感した。神様を求め、ことを求めるようになった。神様と人に愛され、愛にとどまり、愛することを習得する三年間だった。

論文タイトル 私たちができる刑務所伝道

派遣先

単立 馬橋キリスト教会



豊村 恵悟

KBIでの学びはとても祝福されたものとなりました。様々な場面で、主が確かに働いてくださり、導いてくださったことを体験しました。主の力により頼み、進む道のりを歩まされています。教会や先生方の祈り、様々な助けに支えられてきました。弱さを覚えるときも、主と共におられ、福音の力が現されていくことを信じ、主に任せていきたいです。いつも恵みと平安を与えてくださる主に感謝いたします。

論文タイトル 日本の地方宣教について

派遣先 JEC 上郡福音教会



花城 有哉

ただ主との出会いによって飛び込んだKBIでしたが、主の驚くべき恵みの期間となりました。暗闇の中にこそ主がおられ、その主に信頼し踏み出すことを叩き込まれました。そしてこのようにならぬ者をも、神の愛ゆえに用いてくださることを知りました。何よりこの世界に対する神「自身の思いを知りました。そのために私たちが生きていくというのは、驚くべきことです。見よ、わたしは手のひらにあなたを刻んだ。(イザヤ四十九章)

論文タイトル 信仰の個人主義化からの脱却

共同体における義認・聖化、宣教の

派遣先

単立 与儀ファミリー教会



福井 歩

我こそは！と意気込んで入学したことが恥ずかしいくらい、様々なことを通して、ひたすら自分のみじめさに気付かされる三年間でした。何度度も自分自身が崩され、その度に優しい神様の大きな懐の中で、私に与えられた立場を教えられました。

神に選ばれた人々を訴えるのはだれですか。神が義と認めてくださるのです。(ローマ八章三十三節)この与えられた立場に堅く立ち、あわれみ深い神様により頼みながら、これからも主とともに歩んでいきたいです。

論文タイトル 宣教の可能性

の宣教の可能性

派遣先

日本バプテスマ連盟 南名古屋キリスト教会



森田 拓人

私は初め三週間コースで入学しました。当時の私は周りの人との信仰の温度差を感じて、翌日には「もうやめる。」と言ってしまいました。そのような状態でしたが、先生方や先輩、同学年の仲間達の励まし、そして何よりもイエス様が私を引っ張り上げて下さいました。亀のような歩みではありましたが、少しずつ成長することができました。卒業してもここで学んだこと、体験したことを忘れずに、これからの人生を歩んでいきたいです。

論文タイトル 私はどのようにしてLGBTQの人の隣人となるのか

の人の隣人となるのか

派遣先

TPKF 雲井キリスト福音教会



KBIを覚える日の証し

二〇二二年十一月十三日〜十四日

一年 高内 颯

ハレルヤ！主の御名を賛美します。私は三年生の姉妹と共に、鈴鹿キリスト福音教会に行きました。この場所で、沢山の主にある出会いが与えられたことを感謝します。

教会に入ると、あたたかい空気が流れていました。牧師先生と交わる中で、祈りによって教会が長年支えられ、建て上げられてきたと感じました。祈りは本当に大きな土台であると改めて思われました。

二日間という短い時間でしたが、トラクト配布、子ども食堂のイベントのお手伝い、礼拝での証しや中高生との交わりなど、奉仕させていただけで様々な恵みと出会いがありました。その中で、全てにおいてこちらが励まされ、新しく力を受け、帰ってくるのができました。特に子ども食堂のイベントが印象的でした。このイベントは、鈴鹿 Gospel キリスト教会という近隣の教会が働きを



スタートさせ、そこに鈴鹿キリスト福音教会も加わって行っているイベントです。イベントでは、OMから来た宣教師も加わり、一緒になって福音を伝える働きを行なっている姿にとっても刺激を受けました。

私にとっては初めての「KBIを覚える日」でしたが、KBIが多くの人に折られ、支えられ、覚えられていることを知る機会となりました。また、人との出会いは財産になり、出会った人々とその地の祝福のために祈り、思いを寄せることができると、そのようなことを受け取った「KBIを覚える日」でした。

KBIを覚える日

【学生派遣先教会】

- 小浜キリスト福音教会
- 雲井キリスト福音教会
- グローリーチャーチ教団自由
- キリスト教会
- 堺シオン福音教会
- 佐用チャペル
- さんだグレイスチャペル
- 山陽キリスト福音教会
- 鈴鹿キリスト福音教会
- 團田チャペル
- 千代田福音教会
- アリバラーチャーチ
- 東京グレイス福音教会
- 東京グレイスブレイズチャーチ
- 東京チャペル
- 西宮福音教会
- 八尾福音教会
- 八尾南福音教会
- 南大阪福音教会
- 淀川グレイスビルトチャーチ
- 【理事・教師派遣先教会】
- 岡山チャペル(DVD:高橋めぐみ師)
- 北鈴蘭台教会(李守師)
- 京都シオンの丘キリスト教会(高橋めぐみ師)
- 岐阜純福音教会(豊村泰師)

ゴスペルチャーチ千里(大田裕作師)

- 桜台恵み平安キリスト教会(道本純行師)
- 瀬戸サレム教会(小山大三師)
- 名古屋グレイスキリスト教会
- (DVD:高橋めぐみ師)
- ニューホープチャペル(林田清隆師)
- パークサイドチャペル(高橋めぐみ師)
- ヒルズチャーチ(大田伯子師)
- 深草キリスト福音教会(富浦信幸師)
- ペアル清水教会(ジャン・ドウゲン師)
- 保土ヶ谷純福音教会(富浦信幸師)
- 岬福音教会(小山健師)
- 名古屋キリスト教会
- (DVD:高橋めぐみ師)
- 八木山聖書バプテスト教会(大田裕作師)



「カイロスコース」を受けて

二〇二二年十一月十日〜十一日

十一月十八日〜二十日

二年 姜 希樹

「宣教とは何か？」KBIでも多くの学びを受けてきましたが、カイロスの学びを通して、神様主体の世界観へと見方が変えられ、神様の大きすぎる愛と宣教の思いを受け取ることができました。

まず、宣教は神様が創造の時から推し進めていたということを知りました。神様は素晴らしい世界を創造されましたが、人が神様から背き堕落してしまいました。しかし、神様は人を見捨てませんでした。アブラハムを通して、イスラエルを通して、クリスチャンを通して、神様は変わらず全被造物の回復のために宣教を前進させてこられたのです。ここに、神様の偉大な物語を見ることができました。そしてこの物語の中に、私やすべてのクリスチャンも加えられていて、神様の働きのために用いられることを知り、神様への感謝と神様の宣教の情熱を受け取

ることができました。ただ罪による滅びがあるから福音を伝えるのではなく、神様が人々を救いたいと願われているから福音を伝える。その神様の心に合わせられて宣教したいと思わされました。

また海外宣教といえば、現地に行つて福音を伝えるしかないと思つていましたが、このグローバルな時代、未伝地の人々に向こうから日本に来てくれるようになりました。日本においても未伝地伝道ができることを知り、広がる宣教の可能性を見ることができました。

この偉大な神様の働きの中に、私という存在を用いて下さる恵みに感謝し、主が再び来られる時に向かつて、走り続けたいです。



▲イスラム文化のクリスチャン礼拝体験



●修了生●(二月二〇日現在)

宣教師訓練コース(MTC)

- 小野 光葉(印西牧の原キリスト教会)
- 高木 来水(宮崎ハーベストチャーチ)
- 濱田 沙織(岬福音教会)
- 山下 朋子(神愛キリスト教会)
- 山本 満由美(奈良福音教会)
- 教会開拓・刷新コース(CPRC)
- 岸田 ゆかり(守山キリスト福音教会)
- 倉本 直美(姫路キリスト教会)
- 柴原 真由美(山の辺キリスト教会)
- 廣瀬 志保(関西学院教会)
- 兵庫 江美(西宮ハウスチャーチ)



献金を感謝いたします

献金者ご芳名(敬称略・順不同) (2021.9.1~2022.1.20) (KBIへの直接献金分)

■一般会計献金

<KBIを支える会>

個人:加賀清孝、高橋めぐみ、清水弘補、酒井哲男、井野葉由美、田中憲昭、安黒務、黄金井尚美、齋藤邦夫、兼松道子、豊村善典、福田泰博、ボウ・アートマーク、安野清子、石崎政登、岩本美保、平嶋祐治、服部守一、秋元清友、小山大三、高橋吉晴、野木朗、鷗野英子、木下公子、菅沼威、金森徹和子、川崎里美、松本伸一郎、亜紀子、前田秀文、山口美恵子、森(様)、大草美貞、田野秀康、安川真知子、上坂進、前田徳治・様子、辻村順子、伊藤美穂、二口啓一千里、日向さやか、船戸正雄、濱田美貴子、岡田仰、山中多美子、匿名希望2名、氏名不明1名

教会&団体:八尾南福音教会、可児福音教会、鈴鹿キリスト福音教会、浜松汀キリスト教会、奈良福音教会、志度キリスト教会、小森野キリスト教会、尾上聖愛教会、ゴスペルチャーチ千里、京都シオンの丘キリスト教会、旭川神愛キリスト教会、狭山福音教会、西宮福音教会、大和榛原教会、垂水福音教会、チャペル犬山、西可見キリスト教会、香芝ゴスペルチャーチ、北九州チャペル、南名古屋キリスト教会、カナンブレイズチャーチ、ゴスペルハウス静岡、神戸キリスト栄光教会、シャローム希望教会、千代田福音教会

<運営支援献金>

JEC(日本福音教会)、岐阜純福音教会、御殿場純福音キリスト教会、鶴見純福音教会、小松ベタニヤ福音教会、美濃グレースチャーチ、ジャパン・ベサニー・ミッション、保土ヶ谷純福音教会、岐阜ライフチャーチ、FFFM(キリスト福音教会)、房総中央キリスト教会

<特別献金>

1.建設基金献金

個人:春名裕
教会&団体:秦野クリスチャンセンター

2.その他

個人:山本満由美、北尾幸枝、氏名不明1名
教会&団体:大阪基督教生命堂、八木山聖書バプテスト教会、大阪日本橋キリスト教会

【KBIを覚える日献金】

ゴスペルチャーチ千里、奈良ニューライフキリスト教会、志度キリスト教会、八尾福音教会、鈴鹿キリスト福音教会、町田純福音教会、小浜キリスト福音教会、敦賀自由キリスト教会、東京グレイス福音教会、山陽キリスト福音教会、雲井キリスト福音教会、園田チャペル、デリバラーチャーチ、淀川グレイスビルトチャーチ、

東京グレイスブレイズチャーチ、堺シオン福音教会、さんだグレイスチャペル、八木山聖書バプテスト教会、保土ヶ谷純福音教会、パークサイドチャペル、ゴスペルライフ、南大阪福音教会、千代田福音教会、ニューホープチャペル、神戸フィラデルフィア教会、グレイス神戸ミッションチャーチ、岡山チャペル、岬福音教会、泉南福音教会、堺福音教会、桜台恵み平安キリスト教会、福岡ジョイ・ホープチャペル、京都キリスト福音教会、香芝ゴスペルチャーチ、守山キリスト福音教会、京都シオンの丘キリスト教会、深草キリスト福音教会、名古屋グレイスキリスト教会、東京チャペル、上郡福音教会、山の辺キリスト教会、ベテル清水教会、八尾南福音教会、京都クリスチャンフェロシシップセンター、岐阜純福音教会、瀬戸サレム教会、大阪みなとコミュニティチャペル、ヒルズチャーチ、箕面福音教会、西宮福音教会

■奨学基金献金

個人:竹川正英、出原市子、芝蓮代、長谷川みちる、大濱英樹・珠子、金森徹和子、西小野健、大草美貞、森本裕・真美子
教会&団体:チャペル犬山、堺福音教会

■KBI60周年記念献金

個人:安黒務、奥田昭、秋元清友、工藤登志子、西孝司、神戸博央、大北文広、鷗野英子、平嶋祐治、永井盛弘、菅沼威、大濱英樹・珠子、服部守一、福田潔、宮下真由美、金森徹和子、藤井三紀子、西小野健、山田裕一、大田裕作・伯子、檜垣孝子、松本伸一郎、亜紀子、兼松千佳子、野口妙子、橘忠、梶川光、長尾浩明・優子、杉谷千鶴、坂田紀志子、中嶋静枝、押川佳子、加藤恵子、安川真知子、福田徹生、前田徳治・様子、高岸泉、塚原利喜男・真理、松丸純子、井上禎造、福島敏雄、竹内幸司、河合朋子、井戸久美子・あかり、匿名希望2名、氏名不明1名
教会&団体:北鈴蘭台教会、チャペル犬山、真岡カルバリの丘チャペル、岡山チャペル、国分福音教会、佐用チャペル、金沢フィラデルフィヤ教会、ベテル清水教会、カリスチャペル、南さつまキリスト福音教会、ホープチャペル、高砂教会、馬橋キリスト教会、JECレディース委員会、チャペル犬山、フィラデルフィヤグループ合同集会、奈良福音教会、野崎キリスト教会、堺シオン福音教会、五條福音チャーチ、大阪みなとコミュニティチャペル、曙チャーチ、横須賀クリスチャンセンター

※KBIへの直接献金分のみ記載しています。各団体に献金して下さっている場合、ご要望がない場合教会名でなくその団体名を記載しています。どうぞご了承ください。

心を注ぎ出す祈り

小山コミュニティチャペル 万年 宣義師(九二年度卒)

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。希望にあふれた船出ですね。皆さんへ、OBのひとりとして励ましの言葉をを送ります。

私事ですが、何度も主の御前で牧師の働きをやめたいと思ったことがあります。「やめたい」などと弱音を吐くのは献身が足りないから、と思っていました。しかも、「やめたい」ところか、「もう、やめます」と何度も主に訴え出るというお恥ずかしい限りの現実がありました。

しかし、です。主はそれでいいと言ってお下さいました。「民よ、どんなときにも、神に信頼せよ。あなたがたの心を神の御前に注ぎ出せ。」(詩篇六十二章八節)



二章二節)と注ぎ出す祈りをしていました。ハンナも(第一サムエル記一章十五節)、パウロも(第二コリント十二章八節)、主イエス様さえも(マタイ二十六章三十九、ヘブル五章七節) 願風満帆で進んでいく人もあるかもしれません。でも多くの人は困難な道を通らなければなりません。主に心を注ぎ出しつつ、主の道を進んでいきたいと思います。主は言っておられるのですから。「わたしの恵みはあなたに十分」、「わたしの力は弱さのうちに完全に現われるから」(第二コリント十二章九節)と。

後輩へ贈る言葉

南さつまキリスト福音教会 有馬 陽介師(二〇年度卒)

新春のさなか、二〇二二年度関西聖書学院、卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

私は二年前の二〇二〇年にKBIを卒業し、現在派遣先である鹿児島南さつまキリスト福音教会で牧師として主に仕えています。南さつま市は、過疎化が猛スピードで進む日本社会の最前線であり、福音が根付かない荒野でした。それでも、教いが起され、洗礼を授け、礼拝を捧げる、主を告げ知らせる恵みにあずかっています。

派遣先である前線に降り立つと必ず様々な問題や多くの困難におつかります。自分の弱さにも向き合わされ、足場が外され、身動きがとれなくなり、とことん追い詰められていきます。しかし、その時こそ私の内に真の十字架を見出します。しっかりとからだに縫い合わされ、結び合わされてある十字架を何度も何回もさら

宣教の極意

に認めるのです。

「宣教の極意」それは十字架でした。そう、やっぱり十字架なんです。主の十字架に繋がれ、仰ぎ見、安息し、再び立ち上がるのです。十字架、聖霊、そして宣教です。私たちの地上での働きは「秒たりとも無駄ではありませぬ。そして、結果は多分あまり…実はどうでもいいんです。秘訣はいつもイエス様です。」

ようこそ、福音宣教の大舞台へ！同じ主の同労者として心より歓迎いたします。



2022年度 新入生募集

本科コース(1~3年)

応募締め切り: 2022年3月18日(金)
入学金: 50,000円
学費: 680,000円/年(2022年4月より)

短期コース(3週間)

テーマ: 「味わい・知れ」
金参加: 75,000円(授業料、果費、食費)
日程: 2022年4月12日(火) 入学式~
4月30日(土) 修了チャペル
応募締め切り: 2022年3月18日(金)
ゲスト講師: 安食弘幸師・近藤由美師

宣教師訓練コース(MTC)

受講希望者はご連絡ください
※MTC=Missionary Training Course

教会開拓・刷新コース(CPRC)

登録費 5,000円
授業料 60,000円(2年間・授業料のみ)
1泊2日、年8回×2年間(全16回)
原則毎月第三火曜日 15:30から翌日昼食まで
※CPRC=Church Planting & Renewal Course

通信教育コース

・本科編入コース
・生涯学習コース
入学は随時募集しております



KBI関西聖書学院

各コースの資料請求は事務局またはホームページよりお問い合わせください。
電話: 0743-70-8600 FAX: 0743-70-8601
Email: kbi-mark117@arc.orinet.ne.jp HP: www.kbiwave.com

SNSも更新中

応援よろしくお願ひします!



●OB・OG通信●

ご結婚おめでとうございます

吉田 ゆり姉(二〇一八年度卒)と

名嘉真 海成兄

二〇二一年十一月二日

ご就任おめでとうございませう

東 聖士師

堺福音教会三國クリスチャン

チャペル牧師就任

二〇二一年十二月二日

召天のお知らせ

横山 勝彦師

(一九七四年度修了)

二〇二二年一月三十一日 召天

高橋 佐代美姉

(元KBI学院長夫人)

二〇二二年二月五日 召天

●KBI 祈りの課題●

・六十周年記念オリジナル賛美

CDが祝福となるように。

・卒業生、修了生のこれからの

働きのために。

・新年度の入学生、在校生のた

めに。三週間コースが祝福さ

れるように。

・学生の部屋数を増やすことが

できるように。良い案が与え

られるように。

・理事、教師、スタッフの健康

と霊性のために。

・更なる宣教発信をビジョンに、

ガリラヤアクセス路プロジェクト

を進める事ができるように。

●二〇二二年度 行事予定●

四月二日(火) 入学式

四月二日(火)~四月三〇日(土)

三週間コース

六月二三日(木)~六月二六日(日)

宣教ウィーク

七月二日(土) 一学期終了

九月六日(火) 二学期始業

九月二〇日(火)~九月二二日(水)、

九月二九日(木)~十月一日(土)

カイロス宣教コース

十月七日(金) 後期授業開始

十一月二日(土)~十一月三日(日)

KBIを覚える日

十二月一日(木) 二学期終了

一月十日(火) 三学期始業

三月九日(木) 卒業派遣式

●とりなし手の募集●

KBIを覚えて、とりなし折って

下さる方を募集します。是非

kbi-luke24@hera.onetel.jp まで

ご連絡ください。毎月折りのリクエ

ストをお知らせします。また、緊急

の折り課題もお伝えします。